

JAAGA 講演会 (2017.5.9)

「刻々と変化する日本の安全保障環境」

〈Japan's Ever - changing Security Environment〉

在日米軍司令官兼第5空軍司令官マルティネス中将 (Lt. Gen. Jerry P. Martinez)

【地域の脅威】 〈View of Regional Threats (Dangerous Region - Living Beside Three Nuclear Neighbors) 〉

米国がこの地域をどう見ているか話す。

太平洋地域において日本ほど刻々と変化・発展している国は他にない。これは政治的環境の変化も一因であるが、大きな要因は6年間で日本に対する脅威が大きくなってきたことである。

周辺国を見ると、中国は国防費がどんどん大きくなり、北朝鮮は政権が代わり軍事技術がどんどん良くなり、ロシアはクリミア・ウクライナに対する事例にも見られるように活動が活発化している。これらの国々の脅威は日本にも影響を及ぼしている。昨年空自は1,168回の緊急発進を行い、前年度より300回近く増加している。73%は対中国機であり、27%の大部分は対ロシア軍機である。一つ一つの国について、私の見解を述べる。

北朝鮮は、日本の安全保障上最大の差し迫った脅威であり、2013年以降3回の核実験を行っている。ミサイル発射の殆どを占めるMRBM、IRBMは距離の近い韓国を目標とするものではなく、東の他の国に向けたものである。最近日本海に4発撃ち、在日米軍基地向けである旨の声明を公共テレビで発出した。化学兵器の能力も保持しており、マレーシアで兄に使用したことからも、これの使用を躊躇しないことは明らかである。

中国の長期的・戦略的目標は、東に勢力を拡大して影響力を大きくすることである。グアムは米国にとって戦略的に重要な島であるが、中国は7つの人工島を作って領土と主張し軍事化しており、いわば7つのグアムを手に入れたものと同じと自分は見ている。これ自体が日本に大きな影響を及ぼすことになる。なぜなら日本への原油の85%は南シナ海を経由するが、南シナ海・東シナ海における海上交通をコントロールする軍事的能力を発揮することが可能となるからだ。尖閣諸島周辺で様々な活動、挑発的行動をしており、万が一領土化・軍事化すれば、日本のすぐ足下に迫っている状況となり、それは決して我々が許してはならないことである。

ロシアは、静かに気づかれぬように太平洋地域に軍を再配備している。このこと自体に懸念を持つべきである。ウクライナ、バルト3国に対するような悪い行為を、日本に対してさせるわけには行かない。

このような国々が行動している地域であるからこそ、日本の地理的な重要性は極めて重要 (so, so, so important) であり、米国にとって太平洋地域の平和と安定の重要な土台が日本ということになる。日本列島の地理的存在、日本が平和である状

態、日本国民の平和を守る意思がなければ、3つの国はどんどん東に進出してくる状況にある。米国にとって、おいしい寿司や酒がある国というだけでなく、日本はとても重要（very, very important）である。このような強国及びそれに準ずる隣国の活動に対し、日本は日々対処している。

【日米同盟の現状】 〈Status of the U.S. - Japan Alliance〉

どのように脅威に対処すべきか。

日米同盟ほど強固な同盟は世界中にない。日本の人々の安全を保障するとともに、同盟の強さを示すことによって日本への危害を抑止するために、同盟は強くなければならない。日米間には多くのメカニズムがあり（同盟調整メカニズム（Alliance Coordination Mechanism）、日米合同委員会等に言及）、共同で運用し相互運用性を確保し（共同訓練、ACSA、情報共有、対情報に言及）、同盟を維持強化するための様々な取組（沖縄に関する協議等に言及）を行っている。

米国は沖縄県民の対米軍感情を十分理解しており、県民の負担軽減に日々努力している。全ての点で日米が一致しているわけではないが、米国は、日本防衛のためにできるあらゆる手を尽くす。時にとってもハードな訓練が沖縄に問題を起こすこともあるが、日頃から忌憚のない意見交換を行うことで、こうした問題を解決し乗り越えることができている。

韓国は、日米同盟に寄与している。日・米・韓には共通の脅威があり、3国が協力し合うことにより脅威を克服できる。ここ数年で日韓の協力関係は大分進展してきたと見ている。米国にとって北朝鮮問題への対応に当たり、日韓関係は重要である。

【自衛隊の進化】 〈Evolution of Japanese Self - Defense Force〉

日本がこれまでどのように周辺の安全保障環境を確保してきたかについて話す。

日本国憲法に戦争放棄が明記され日本が常に平和的に解決してきたことから、世界的に日本は愛されている。しかし、不幸にも脅威の中身が変わってきた。個人的見解だが、日本は安全保障環境の変化に迅速に対応してきた。憲法を守りながら地域の安全を確保する第一級の軍事力を有している。自衛隊法 95 条の 2 の武器等防護に関する取り決めは日本にとってとても大きな一歩であり、自国同様に同盟国も守れるようになった。数日前に海自が米海軍艦船を対象とする武器等防護任務に初めて従事したことは、この地域のあらゆる国に対する強力なメッセージである。航空機についても同様な任務をやってほしい。水陸両用戦能力の構築を日本は強力に実施中である。日本の島嶼防衛上、この能力は大きな価値となる。装備品の更新も強力に進め、自衛隊の様々な装備は最新鋭である（F-35、イージス艦、ペトリオット PAC-3、SMIII Block2、グローバルホーク等）。オスプレイの調達も検討されている。海自護衛艦「いずも」が南シナ海を航行することを最近安倍総理が公表した。

これら全てのことが、日本と周辺の安全をしっかりと守っていく日本の強い意思を世界に示すことになっている。多くの達成は全て日本が独自にやってきた大きな功績の数々であり、日本が強い意思を持って前に進んで行くそのやり方を、米国としては大いに誇りに思っている。

太平洋地域において、周辺国が日本を信頼が置ける国、必要時にしっかり対応する国・自衛隊であると見ていることは明らかである。米国は日本を誇りに思う。日本人も日本・自衛隊を誇りに思って欲しい。憲法を維持しつつ国を守る方策を考え対応してきた、素晴らしい国である。

【日本の安全に対する米国の軍事的貢献】 〈U.S. Military Contributions to Japanese Security〉

安全がこの地域で脅かされた時、解決するためにすべきことがある。それは友人であり同盟国である米国のことであり、米国がどのように日本の安全に寄与しているかについて話したい。

この数ヶ月間に、カーター前国防長官、マティス国防長官、ティラーソン國務長官、ペンス副大統領が訪日した。次期大統領に決定した就任前のトランプ氏を世界のリーダーで最初に訪問したのは安倍総理である。トランプ大統領が最初に招待した外国のリーダーも安倍総理である。米国にとって日本がいかに重要かを表している。

在日米軍の将兵は 54,000 人を超える。在韓米軍は 28,000 人であり、日本には倍の米軍将兵がいる。グーグルで調べたことなので正確性は定かではないが、日本は米軍人が最も多く勤務する国であり、ドイツ、イギリス、イタリアやアフガニスタン、イラクのような中東諸国よりも多い。米国にとって疑いもなく日本が重要であることを、皆さん分かってくれれば嬉しい。

装備も最新鋭のものを日本に配備している（空母ロナルドレーガン、F-35、E-2D、RQ-4 グローバルホーク、C-130J に言及）。最も優秀な装備を日本に置くということは、日本の皆さんに対する明確なメッセージである。米軍は世界中にプレゼンスがあり、私も多くの国での勤務経験があるが、日本ほど米軍の最新鋭の能力を有する国はない。

【結論】 〈Final Thoughts〉

米軍は強く、日本防衛に係る条約上の義務を果たす用意ができています。米国は日本の安全に対して深くコミットしている。自衛隊と協力して (side-by-side) 対応していく決意である。自衛隊は、世界で一流かつ最新装備を有する信頼できる軍事組織である。日米が一緒になって協力し合うことによって、我々は常に日本の安全・防衛を確保していくことができる。

米国はこの同盟のパートナーであることを大いに誇りに思う。日本と日本国民に対して大いなる (tremendous) 尊敬の念を持っている。敵対的な国 (adversaries) に対する我々のメッセージははっきりしている。何があっても決してこの同盟を壊すことはできない (They will never, ever, ever brake this alliance) というのである。

(平成 29 年 5 月 9 日、JAAGA 総会時講演、グランドヒル市ヶ谷)

※ 講師の略歴、質疑応答は、総会記事を参照